AEAJ 認定アロマテラピーインストラクター・アロマセラピスト 公式テキスト一部修正および正誤

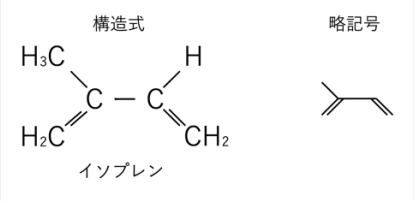
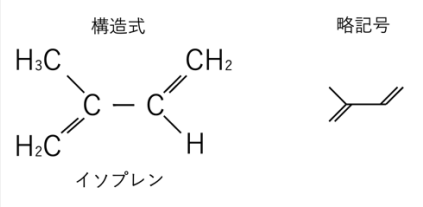
更新 2022/10/3

下記のとおり訂正してお詫び申し上げます。

【アロマテラピーインストラクター・アロマセラピスト　共通カリキュラム編】

P	行	該当箇所	修正箇所	変更理由
13	コラム【原料植物の属名と種小名】	ラベンダーとローズマリーがその例です。	メリッサとローズマリーがその例です。	誤りのため訂正
21	表 1-3	芳香成分や天然のワックス成分や色素などを含んだ半固体状の物質	芳香成分や天然のワックス成分や色素などを含んだ半固形状の物質	『アロマテラピー検定 公式テキスト』と表記統一
27	11	飽和炭化水素を中心とする化合物を飽和化合物、不飽和炭化水素を中心とする化合物を不飽和化合物といいます	飽和炭化水素のみの化合物を飽和化合物、不飽和炭化水素を含む化合物を不飽和化合物といいます	より正確な表現へ変更
27	17	ある系統の化学反応性や特性を決定する原子（原子団）のことを官能基といいます	有機化合物の性質を決める働きをもつ原子団（原子の集まり）を官能基といいます	官能基は原子の集まりであるため
28	2	イソプレンが複数個生合成されてできた化合物	イソプレンが複数個結合してできた化合物	「生合成」は生体によって行われる生体物質の合成であり、原子やイオンが集まって分子などをつくる際の原子間の結びつきは「結合」とされるため

© AEAJ / Aroma Environment Association of Japan. All rights reserved.

P	行	該当箇所	修正箇所	変更理由
28	図 1-7	イソプレンの構造式【参考】  	トランス表記へ修正  	イソプレンの一般的な構造式に合わせ、トランス表記に修正
28	12	（モノテルペン説明内）分子式は $C_{10}H_{16}$	基本の分子式は $C_{10}H_{16}$	他にも表記できる分子式があるため
28	12	比較的分子量の小さいモノテルペンは揮発性が高く、においはそれほど強くないのが特徴です	比較的分子量の小さいモノテルペンは揮発性が高いのが特徴です。なお、香りの強さは成分によって異なります	成分によって異なるため、より正確な表現に修正
28	16	（セスキテルペン説明内）分子式は $C_{15}H_{24}$	基本の分子式は $C_{15}H_{24}$	他にも表記できる分子式があるため
28	18	強いにおいをもち、	強いにおいを持つものもありますが、一般的には重量感のある香りです。なお、	成分によって異なるため、より正確な表現に修正
28	20	セスキテルペンはサンダルウッド精油やパチュリ精油などの芳香成分に多くみられます。	サンダルウッド精油やパチュリ精油などは、セスキテルペン成分が主体となっています。	より事実に即した表現に修正
28	23	（ジテルペン説明内）分子式は $C_{20}H_{32}$	基本の分子式は $C_{20}H_{32}$	他にも表記できる分子式があるため
30	表 1-5②	カマズレン	β-カリオフィレン	カマズレンはノルセスキテルペン（炭素数 14）であり、正確にはセスキテルペン（炭素数 15）とは異なるため、β-カリオフィレンに差し替え
30	表 1-5⑫	ベルガプテン	ジャスミンラクトン	ベルガプテンはラクトン類ではあるがフロクマリンに分類され「名称にラクトンが含まれないこと」、「香り成分ではないこと」からジャスミンラクトンに差し替え
31	8	フェニルエチルアルコールは水溶性のため、ローズオットー精油にはわずかにしか含まれていませんが、ローズの芳香蒸留水やアブソリュート精油には多く含まれています	フェニルエチルアルコールは水にわずかに溶けるため、水蒸気蒸留で抽出するローズオットー精油にはあまり含まれませんが、芳香蒸留水やアブソリュートには多く含まれています	より正確な表現へ変更

© AEAJ / Aroma Environment Association of Japan. All rights reserved.

P	行	該当箇所	修正箇所	変更理由
31	10	アブソリュート精油には	アブソリュートには	『アロマテラピー検定公式テキスト 1 級・2 級（2020 年 6 月改訂版）』に表記を統一
31	19	カルボニル基（C-O）※に水素原子が 1 つずつ結合	カルボニル基（C=O）※に水素原子が 1 つ結合	誤りのため訂正
32	2	鎖状構造のなかに酸素原子をもつ	環状構造のなかに酸素原子をもつ	誤りのため訂正。オキサイド類の場合、一般的には環状構造の中に酸素原子を持つため
32	11	ラクトン類は分子量が大きく、水蒸気蒸留法で得る精油には含まれにくく、圧搾法で得る精油に多く含まれます	特徴的な成分としては、ジャスミンに含まれ、クチナシの花のような甘くミルキーな香りのジャスミンラクトンなどがあります	分子量や抽出方法による含有量は成分によって異なるため、より一般的な表現に修正
32	コラム 【異性体】	ほかにゲラニアールとネラールなども異性体です。レモン精油やレモングラス精油に含まれているシトラールは、α-シトラールとβ-シトラールに区別することができ、α-シトラールがゲラニアール、β-シトラールがネラールです。	ゲラニアールとネラールも異性体で、総称してシトラールと呼ばれ、レモン精油やレモングラス精油に含まれています。	α-シトラールは実際には起こりえないため、事実に即した表現に修正
33	18	酸化反応は光や熱によって加速します	酸化反応は光や熱などによって加速します	光や熱以外の要素が関係する場合もあるため
35	15	混合物に含まれる各成分の沸点や蒸気圧の違いを利用して、成分を分別することを分別蒸留、略して分留といいます	液体の混合物を、沸点の差を利用して、蒸留によって成分ごとに分ける操作を分別蒸留（分留）といいます	より正確な表現に修正
35	18	精油の製造においては、使用上または保存上の理由から、フロクマリン類やテルペン類の一部を分別蒸留で除去する場合があります	精油の製造においては、使用上または保存上の理由から、テルペン類の一部を分別蒸留で除去または抽出する場合があります。	分別蒸留によって除去することを脱フロクマリンというわけではないため、正確な表現に修正
35	22	光毒性の成分のフロクマリン類を分別蒸留によって除去することを	光毒性の成分のフロクマリン類を除去することを	フロクマリン類は分別蒸留で除去できないため、より正確な表現に修正

© AEAJ / Aroma Environment Association of Japan. All rights reserved.

P	行	該当箇所	修正箇所	変更理由
36	7	比較的比重の大きい芳香成分は揮発しにくくなります	比較的比重の大きい芳香成分は揮発しにくい傾向があります	組成によって異なるため、より正確な表現に修正
36	表 1-6 トップノート	精油に含まれる芳香成分の分子量が小さく、揮発速度の速いもの	精油に含まれる芳香成分の揮発速度が速いもの	組成によって異なるため、より正確な表現に修正
36	表 1-6 ミドルノート	精油に含まれる芳香成分の分子量および揮発速度が、トップノートとベースノートの中間に位置するもの	精油に含まれる芳香成分の揮発速度が、トップノートとベースノートの中間に位置するもの	組成によって異なるため、より正確な表現に修正
36	表 1-6 ベースノート	精油に含まれる芳香成分の分子量が大きく、揮発速度の遅いもの	精油に含まれる芳香成分の揮発速度が遅いもの	組成によって異なるため、より正確な表現に修正
131	3	動悸、頭が重い、めまい、耳鳴り、頭痛、腹痛、疲労感、食欲の低下、嘔吐、下痢、のぼせ、めまい、しびれ、肩や首のこり、睡眠障害など。	動悸、頭が重い、めまい、耳鳴り、頭痛、腹痛、疲労感、食欲の低下、嘔吐、下痢、のぼせ、しびれ、肩や首のこり、睡眠障害など。	重複のため削除

【アロマテラピーインストラクター　独自カリキュラム編】

P	行	該当箇所	修正箇所	変更理由
65	図 2-29	嗅織毛（嗅毛）	嗅繊毛（嗅毛）	誤りのため訂正

お問い合わせ
license@aromakankyo.or.jp

© AEAJ / Aroma Environment Association of Japan. All rights reserved.